

聖書日課 『からし種』 2024.11.3-11.10

<p>11月3日 (日) エゼキエル 26章</p>	<p>「それゆえ、主なる神はこう言われる。ティルスよ、わたしが お前に立ち向かう」(3節)。ティルスは南ユダ王国の隣りの 国。両国はアッシリアやバビロンの軍事侵攻の脅威に対し て、時に連帯し、時に対立して歩んできた。けれども真の意味 でティルスに立ち向かっていたのは主なる神だったのであり、 彼らは主なる神の声をこそ聴くように招かれていたのである。</p>
<p>4日 (月) エゼキエル 27章</p>	<p>「人の子よ、あなたはティルスのために、嘆きの歌をうたいな さい」(2節)。ティルスは美しい港で、極上の香料や衣服、銀 製品など、世界中の豪華な品々が集まり、富栄えていた。そ のティルスが水中深くに沈む日(34節)が来るとは誰も想像で きなかった。私たちは「これまでの類推」でしか未来を語れな い。すべての造り主なる神だけが、私たちの未来を示される。</p>
<p>5日 (火) エゼキエル 28章</p>	<p>「しかし、お前は人であって神ではない」(2節)。ティルスの君 主は世界中の金銀を宝庫に蓄えて、「わたしは神だ。神々の 住みかに住まう」と豪語した。しかし、その君主の高慢に向け て神の剣が向けられていく。私たちはどこで神の言葉と出会 い、神の前に謙遜を取り戻すことができるのだろうか。主よ、 今日、わたしの中にある「高慢」を示し、取り除いてください。</p>
<p>6日 (水) エゼキエル 29章</p>	<p>「彼ら(エジプト)が他の国々を踏みつけることがないように、 わたしは彼らを小さくする」(15節)。何千年も前から人間は、 富栄えた王たちが他の国々を踏みつける歴史を繰り返してき ている。富は誰かを踏みつけるために与えられているのでは ない。ザアカイが富を分かち合う決断に導かれた時、主イエス が「今日、救いがこの家を訪れた」と喜ばれたことを覚えてい。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.11.3-11.10

<p>7日 (木)</p> <p>エゼキエル 30章</p>	<p>「わたしがエジプトに裁きを行うとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる」(19節)。この30章には「彼らはわたしが主であることを知るようになる」という言葉が四回繰り返されている。それほどまでに私たち人間は「鈍感」なのだ。素直に神を認めない、知ろうとしない、自分が神でいたい。「今日、あなたを知る者としてください」という祈りをもって始めよう。</p>
<p>8日 (金)</p> <p>エゼキエル 31章</p>	<p>「見よ、あなた(エジプト)は糸杉、レバノンの杉だ。その枝は美しく、豊かな陰をつくり／丈は高く、梢は雲間にとどいた」(3節)。エジプトは当時の世界中の国々から「偉大さ」をほめたたえられた国。しかしその「偉大さ」は誰によって、何のために与えられたのかを知ろうとしないなら、その「美しさ」も「豊かな陰」も「丈の高い梢」も、あっという間に失われることになる。</p>
<p>9日 (土)</p> <p>エゼキエル 32章</p>	<p>「まことに、わたしは生ける者の地に／恐れを置いた」(32節)。主イエスは「恐れるべき方を恐れる信仰」を示すと共に「恐れる必要のない者を恐れるな」と励ましてくださった(ルカ12:4以下)。私たちは「恐れるべき方」と「恐れる必要のない者」をよく混同する。「小さな群れよ、恐れるな」という主の伴いをいただきながら、「正しい恐れ」を学ぶことができますように。</p>
<p>10日 (日)</p> <p>エゼキエル 33章</p>	<p>「わたしは悪人が死ぬのを喜ばない。むしろ、悪人がその道から立ち帰って生きることを喜ぶ。立ち帰れ、立ち帰れ、お前たちの悪しき道から。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか」(11節)。主の裁きは、わたしたちを主の道に連れ帰るための願いに満ちている。イエス様もまた、十字架上で、わたしたちの赦しを祈ってくださっている。</p>